

「紙パックリサイクル年次報告書」 発行にあたって

限りある資源を有効に利用して、美しい地球の環境と豊かで恵まれた生活を未来の子どもたちに引き継いでいくためには、環境と経済が両立した持続可能な循環型社会を構築していくことが必要であり、そのためには、廃棄物の発生を抑制し、資源を再使用、再生利用していく「3R」をさまざまな関係者の協力で促進していくことが求められております。

紙パックは、「うる、そだてる、つかう」ことにより再生産が可能な森林資源を有効利用して作られている容器であり、中身を利用した後は、「洗って、開いて、乾かして」分別回収することにより、良質で価値のある資源として再利用が可能となり、資源の節約、エネルギーや二酸化炭素排出など環境負荷の削減に役立ちます。また、森林資源を育成することにつながりますので、地球温暖化防止に大きく寄与します。

紙パックは、誰にとっても身近な存在でありますので、紙パックのリサイクル活動は、3Rを推進し、循環型社会を構築していく上で大いに意義のある教育的効果の高い活動であると考えております。

紙パックの回収率は、2004年度には35.5%に向上し、2005年度の目標であった35%を前倒して超えて新たな目標を目指していく段階となりました。当協議会では、昨年4月に「2010年度に紙パック回収率を50%以上に向上する」新目標を設定して、新たな取り組みを開始しております。

昨年来、容器包装リサイクル法の見直しが行われており、容器包装廃棄物の発生抑制、環境負荷の削減など3Rの推進に向けた事業者の役割がいっそう大きく求められておりますが、当協議会においても事業者としての責務を強く認識しております。

紙パックのリサイクルは、20年以上も前から「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」をはじめとして、多くの市民グループや自治体や関係事業者の方々のご努力により、さまざまな方法で自主的に効率的な回収が行われており、その回収量は年々増加しております。当協議会では、今後も紙パックリサイクルに係る関係者間の連携を強化することなど、紙パックのリサイクル促進に向けて中心的な役割を果たしていく所存です。紙パック回収率目標達成を目指した普及活動に努力すると共に、紙パックのリサイクル活動を通じて子どもたちの環境教育が進展するよう啓発活動を行って参ります。

本年度は、「牛乳パックリサイクル促進のための地域会議」を全国5ヶ所で開催すると共に、回収ボックスの提供による回収拠点10,000ヶ所拡大活動の促進など、「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」との協働・連携活動を強化して活動を進めて参りました。また、子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」の開設、製品への環境キャンペーン広告掲載、自治体向けメッセージBOXキットの無償提供、エコプロダクツ展出展、ライフサイクルアセスメント(LCA)調査など、紙パックリサイクル普及促進事業を大幅に拡大して実施しております。

このたび当協議会の活動を取りまとめ「紙パックリサイクル年次報告書」を発行いたしました。どうかご一読いただき、皆様からのご意見、ご指摘をお寄せいただきたくお願い申し上げます。



全国牛乳容器環境協議会
会長
小野田 顕正

2006年1月

2005年度 紙パック回収率向上のための アクションプラン

全国牛乳容器環境協議会では、本年度より「2010年度に回収率50%以上」を新目標として掲げております。2005年度の具体的な取り組みは以下の通りです。

〈目標〉 紙パック回収率 2010年度 **50%**以上

- 紙パックリサイクルに係る全ての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進する。
- 紙パックを良質な資源としてリサイクルすること及び再生産可能な資源を有効に利用することにより資源の節約と環境負荷の削減を図る。

主な取り組み

- ①牛乳パックリサイクル促進のための地域会議開催、モデル地域集中プロジェクトによる地域回収ルート普及拡大。(全国パック連と共催)
- ②回収ボックス提供による10,000ヶ所拠点拡大。(全国パック連と協同)
- ③自治体への協力。(メッセージBOXキット、小冊子、ビデオ等、啓発ツール提供)
- ④小中学生に対する啓発促進。(子供向け環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」開設)
- ⑤環境キャンペーン。(商品への環境メッセージ広告掲載)
- ⑥紙パック工作コンクール協賛。
- ⑦紙パックLCA調査研究。
- ⑧環境イベントへの積極的参加。(牛乳パックの再利用を考える全国大会、エコプロダクツ展、森林の市)
- ⑨牛乳パックリサイクル講習会開催。(全国パック連と共催)
- ⑩紙パックリサイクル実態基本調査及び、回収量拡大のためのフォローアップ。
- ⑪学校給食用牛乳パックのリサイクル促進モデル事業推進。
- ⑫ホームページの拡充。(アクセス数:2004年度月間平均7万件)
- ⑬行政、自治体、市民団体、全国パック連、リサイクル団体、関係事業者等との協議の場を設け、連携強化を図る。
- ⑭再生紙メーカーとの連携強化、リサイクル製品の利用拡大。
- ⑮紙パックリサイクル年次報告書発行。

全国牛乳容器環境協議会の概要

所在地 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-14-9 乳業会館
TEL. 03-3264-3903 FAX. 03-3261-9176
URL. <http://www.yokankyo.jp>

設立 1992年8月31日

事業概要 ●環境保全、再資源化など環境問題の啓発活動への協力
●牛乳等容器の環境問題に関する知識の普及
●牛乳等の紙容器再資源化運動への協力
●牛乳等容器の環境問題に関する各種調査、研究およびその支援
●その他必要な事業

主な活動 ●牛乳等紙容器の普及啓発情報提供(消費者、市町村、学校等)
●牛乳等の紙容器再資源化運動への協力(市民団体)
●紙容器、使用済み紙容器の再資源化等の技術調査、国内外視察(リサイクル政策、森林管理、再生紙メーカー)、海外文献紹介
●紙容器のリサイクルの現状と動向に関する実態調査
●行政、関係する他の団体との連携
●会員への情報提供

CONTENTS

活動トピックス

| | |
|------------------------|----|
| 牛乳パックリサイクル促進地域会議 | 2 |
| 回収ボックスとメッセージBOXキット | 4 |
| 子どもたちに向けた啓発活動 | 5 |
| 環境メッセージ掲載キャンペーン | 6 |
| 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2005 | 7 |
| LCA調査 | 8 |
| 海外調査 | 9 |
| その他の2005年度の活動 | 10 |

活動報告ダイジェスト

| | |
|---------------------|----|
| 2004年度の紙パック回収率 | 12 |
| 2004年度 紙パックマテリアルフロー | 14 |

2005年度活動報告

| | |
|-----------------|----|
| 小売事業者のリサイクル状況 | 16 |
| 市町村回収の状況 | 18 |
| 集団回収の状況 | 19 |
| 福祉作業所・市民団体の回収状況 | 20 |
| 回収業者・回収問屋の状況 | 21 |
| 学校のリサイクル状況 | 22 |
| 飲料メーカーのリサイクル状況 | 24 |
| 再生紙メーカーのリサイクル状況 | 25 |

紙パックのリサイクル学

| | |
|--------------------------|----|
| 「森林のライフサイクル」と「紙パックリサイクル」 | 26 |
|--------------------------|----|

全国牛乳容器環境協議会の概要

| | |
|----------|----|
| 会員一覧／あゆみ | 28 |
|----------|----|

牛乳パックリサイクル促進地域会議

会議では活発な情報交換がなされました。

牛乳パックリサイクルにおける地域ごとの課題や現状を把握するために、毎年、開催している「牛乳パックリサイクル促進地域会議」は、2005年度も「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」と共催により、兵庫、徳島、宮城、大分、広島の5ヶ所で開催。地元自治体、関連メーカー、市民団体などさまざまな立場の方たちの参加のもと、熱心な情報交換がなされました。また地域会議と同時に、関連施設の視察も実施。地域会議の内容は右の通りですが、詳細な内容は今後、報告書として発刊される予定です。

地域会議の開催場所

- 2005年度の開催場所
- 過去の開催場所



牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 兵庫／姫路市

- ◆ 開催日 2005年6月2日(木)
- ◆ 参加者 自治体、乳業・飲料メーカー、事業者(銀行、製紙メーカー、流通など)、福祉作業所、市民団体など計42名

主な報告や問題提起

- 姫路市では今年度より学乳パックのリサイクルがはじまり、順調に進んでいますが、明石市や誕生したばかりの穴粟市では、まだ検討中とのことでした。
- 中間処理業者から、1日6〜7トンの処理能力がある最新の未洗浄紙パックの裁断洗浄設備が報告されました。受け皿メーカーも含め、この地域はリサイクルに柔軟に対応できる条件が整っており、「回収率アップのための西播地域集中プロジェクト(右ページ)」への期待も表明されました。
- 姫路市の福祉作業所では、市で回収した紙パックの選別作業を受託しています。他市の施設からも障害者の仕事に紙パックを役立てたいとの意向が示されました。



牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 徳島／徳島市

- ◆ 開催日 2005年7月13日(水)
- ◆ 参加者 自治体、乳業・飲料メーカー、事業者(流通、古紙事業者など)、市民団体など計42名

主な報告や問題提起

- 徳島県では3R(リデュース・リユース・リサイクル)を基本に、環境施策を推進しています。紙ごみを雑誌、ダンボール、紙パックに分別して回収したり、会合や施設見学を通じてリサイクルの大切さを伝えているとのことでした。
- 生協とスーパーから、順調な店頭回収の状況が報告されました。生協は今後、再生品の利用促進を訴えていきたいとのことでした。
- 四国の乳業メーカーが多数参加され、学乳パックについては供給メーカーごとにさまざまな施策が取られている旨が報告されました。ただし中には、学校の協力が得られず、回収後に焼却されている例も報告され、リサイクルを今後の課題としています。

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 宮城／仙台市

- ◆ 開催日 2005年10月26日(水)
- ◆ 参加者 自治体、乳業・飲料メーカー、学校給食会など計39名

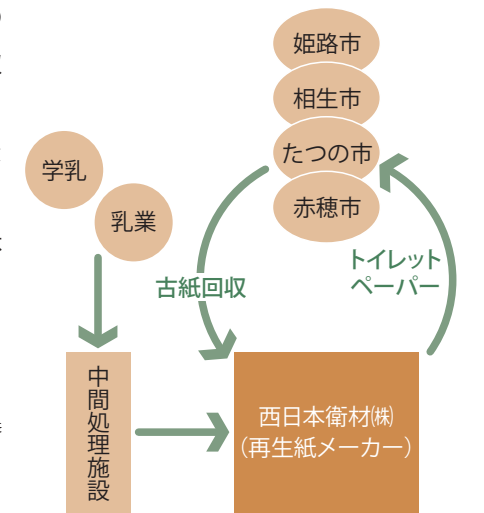
主な報告や問題提起

- 宮城県では、69市町村中、65市町村が飲料用紙パックの分別回収を実施しています(2004年度実績)。また新しい分別収集計画によると、2006年度に飲料用紙パックの収集量を391トンと予想しています。
- 学乳パックについて宮城県、岩手県、秋田県の現状が、関係各所から報告されました。昨年度から取り組みはじめた岩手県では小中学校合わせて52校が、さらに今年度は新たに20校が実施予定ですが、他県からは「リサイクルが面倒」といった声が多いなど、問題提起され、当協議会から実践事例を報告し、不安点を解消してもらいました。
- 乳業メーカーからは、学乳パックのリサイクル時、洗浄が不完全である点が報告されています。

回収率アップのための西播地域集中プロジェクト

当協議会では、2005年度の新規事業として、「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」と共同で、西播地域集中プロジェクトに取り組むことになりました。これは兵庫県の西播地域の牛乳パックリサイクルに関する基礎データを把握し、回収率向上の具体的な方法を模索、実践していくものです。西播地域は以前より牛乳パックの回収が行われており、再生紙メーカーなど関連業者などの体制も整っている(右図)ことから、プロジェクトの対象としました。今後、回収の実態調査や回収拠点の拡大、見学会の実施など、さまざまな活動が実施される予定です。

- ◆ 参加者 全国牛乳パックの再利用を考える連絡会(プロジェクト事務局)、兵庫県農林部、姫路市環境局、兵庫県牛乳協会、地元メーカー(日本ミルクコミュニティ(株)、森永乳業(株))、西日本衛材(株)、西播地域量販店、福祉作業所、コープこうべ、全国牛乳容器環境協議会



回収ボックスとメッセージBOXキット

回収ボックスをセットにした メッセージBOXキットが好評です。

牛乳パックの回収率向上には回収拠点の拡大が不可欠と、2001年より設置運動を進めてきた「牛乳パック回収ボックス」。牛乳パックから作った再生ダンボールのこのボックスを、自治体や生協、スーパーなどを中心に、これまでに累計6,170個(2005年11月末現在)提供させていただきました。回収ボックスの申込みは自治体からがもっとも多く、ついで企業、福祉作業所となっております。自治体では、学校や保育所、庁舎内や公民館など公的施設に設置していただくケースが多いようです。

また2005年7月からは従来の回収ボックスとともに、再生ダンボールで作られた展示台、牛乳パックを利用したリサイクル製品一式、啓発用資料を「メッセージBOXキット」として自治体向けに提供。開始して4ヶ月あまりで230もの申込みをいただいております。

回収ボックスとメッセージBOXキットの提供による回収拠点の拡大は啓発効果が高く、紙パックの回収促進に大きく寄与しております。当協議会では、今後も1万ヶ所の回収拠点づくりを目指して、これからも提供活動を進めてまいります。

回収ボックス配付状況

| | |
|----------------|--------|
| 2002年度 | 1,275個 |
| 2003年度 | 1,415個 |
| 2004年度 | 1,725個 |
| 2005年度(11月末まで) | 1,615個 |

合計 **6,170個**

回収ボックス申込み状況(2005年度実績)

| | |
|---------|------|
| 行政・自治体 | 703個 |
| 企業 | 416個 |
| 生協・スーパー | 85個 |
| 学校 | 221個 |
| 福祉作業所 | 125個 |
| 市民団体 | 65個 |
| その他 | 0個 |

合計 **1,615個**



回収ボックスと展示台、牛乳パックを利用したリサイクル用品一式、啓発用資料をセットにした「メッセージBOXキット」

子どもたちに向けた啓発活動

子ども向けホームページ 「牛乳パックン探検隊」もオープン。

当協議会は、将来の3R社会を担う子どもたちに対し、牛乳パックリサイクルを中心とした環境問題に関するさまざまな啓発活動を行っています。

その一環として、2005年4月に子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」をオープンしました。森林資源から牛乳パックが誕生し、飲用後、再生品としてリサイクルまでを取り上げ、牛乳パックリサイクルの意義や地球環境との関わり方、環境負荷を低減する提案などを、キャラクター“パックン”を使ってわかりやすく解説しています。

制作にあたっては教育界からも編集委員への参画を仰ぎ、子どもたちの興味をひき、知識欲を向上させるよう、努めました。またホームページ情報をダイジェストで掲載したリーフレットも配布。2005年12月現在でアクセス数14,929と多くの子どもたちに利用していただいています。

今後は逐次情報の更新を行うとともに、クイズやQ&Aなどのコンテンツ強化を図る予定です。



ホームページのトップ画面です。構成は
●牛乳パックンの秘密を探しに北の森へ
●世界中で愛されているよ、牛乳パック
●地球とみんなのためにリサイクル
の3つに大きく分かれています。
<http://www.packun.jp>

URLを掲載したリーフレットを配布。ホームページのダイジェスト情報も掲載し、興味を持ってもらえる内容となっています。



環境メッセージ掲載キャンペーン

約2,800万本にメッセージを掲載してリサイクルを啓発。

当協議会は、2005年6月の環境月間と10月の3R月間に合わせ、牛乳パックに「うえる→そだてる→つかう→リサイクル」という環境メッセージを掲載することでリサイクルの啓発を図るキャンペーンを実施しました。牛乳パックが再生可能な森林資源から作られており、リサイクルすることが毎日の生活の中のできる地球環境を守る活動であることを消費者に

直接メッセージすることが狙いです。本キャンペーンは2004年10月、2005年6月に引き続き3回目となりますが、今回は会員の20社の協力を得て、環境メッセージが掲載された牛乳パックは2005年6月と10月を合わせて約2,800万本となっています。

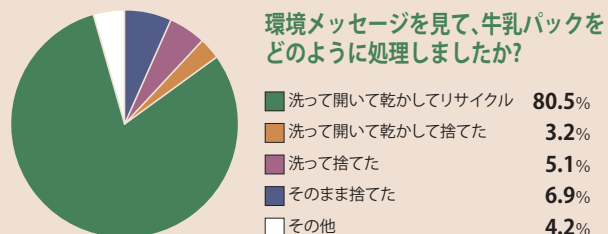
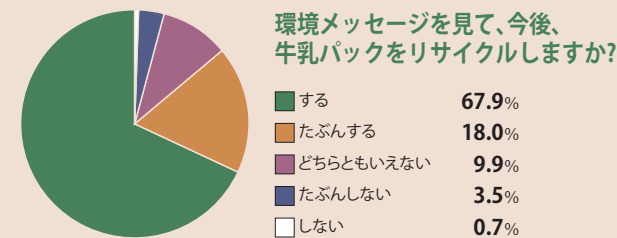
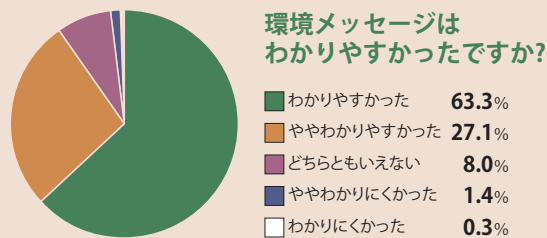


メッセージを見て正しくリサイクルした人が約8割。

上記キャンペーンの効果をインターネット調査したところ、環境メッセージが「わかりやすかった」「ややわかりやすかった」と答えた人は全体の9割以上になり、8割の人は「洗って開いて乾かしてリサイクル」していることがわかりました。環境メッセージを見て、今後リサイクルするという人は、たぶんするという人

を加えて85.9%でした。環境メッセージは浸透しつつあり、さらに継続してリサイクルの啓発活動を行っていきます。

- ◆ 調査対象 週に1回以上1,000ml紙パックを購入している30代～50代の女性(N:960)
- ◆ 調査地域 関東圏・東海圏・大阪圏・中国圏
- ◆ 調査期間 2005年11月



- 環境メッセージに関するご意見
- 森林の恵から紙パックが生まれ、それをリサイクルすることで再生品が生まれることは素晴らしいと思う。しかし牛乳パックの回収場所がそう多くないのが残念だ。(大阪圏・40代)
 - 紙製品のリサイクルをもっと切実に訴えるような言葉があるとよいと思う。(東海圏・40代)
 - 一人一人がリサイクルに意識を持って、使い終わった後、協力する気持ちがあるので、このマークをもっと大きく表示してもよいと思う。(東京圏・50代)

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2005

過去最多の応募作品の中から、平野桃子さんが最優秀賞に!

小学生を対象にした「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2005」(日本テトラパック株式会社および当協議会が協賛)が、今年も実施されました。このコンクールは牛乳パック工作の募集を通じて、ものを大切にすることを学び、広く地球環境への興味を広げてもらうことを目的としたもので、今年で5回目。募集期間(9月1日～10月20日)に寄せられた作品数は過去最多の2358件に上りました。

その中から見事、最優秀賞に選ばれたのは平野桃子

さんの「マイ・エコ・バッグ」。仕上がりの素晴らしさに加え、牛乳紙パックを再利用してバッグを作るという発想と実用性、完成度、また環境への関心が高まる時代を捉えたメッセージ性などが高く評価されました。全国牛乳容器環境協議会賞には小日向誠くんの「おりたたみつくえ・いす」が選ばれ、その他優秀賞他全10作品が表彰されました。なお受賞作品は「牛乳パック探検隊」ホームページと日本テトラパック社のホームページでも紹介されています。

最優秀賞



【マイ・エコ・バッグ】 平野桃子さん(静岡県/4年生)

全国牛乳容器環境協議会賞



【おりたたみつくえ・いす】 小日向誠くん(北海道/4年生)



審査風景



表彰式



受賞作品の展示

LCA調査

紙パックの最新LCIデータを環境省に提供しました。

当協議会では、2003年度よりLCA^{*1}の調査委員会を編成し、(財)政策科学研究所と協働で紙パックのLCAデータの構築を実施してきました。結果は2004年度に報告書にまとめ公表しています。同時に、環境省で2002年度から3年間実施されたLCA調査プロジェクト「容器包装ライフサイクル・アセスメント(LCA)に係る調査事業」にも、紙パックの業界団体として参加し、国内を代表する紙パックの最新LCI^{*2}データを提供することができました。これらの成果の概要として、代表的

紙パック3種類のLCI(2004年)

| 容器の仕様等 | | ①レンガ型(アルミなし) | | | ②レンガ型(アルミ付き) | | | ③屋根型(アルミなし) | | | |
|------------------------|-----------------------------------|--------------------|----------|----------|-------------------|----------|----------|-------------------|----------|----------|---------|
| 容量(ml) | | 200 | | | 250 | | | 1,000 | | | |
| 重量(g) | | 8.21 | | | 10.43 | | | 30.04 | | | |
| 内容物 | | 牛乳 | | | 清涼飲料 | | | 牛乳 | | | |
| 回収率(%) | | 29.1 | | | 0.0 | | | 24.5 | | | |
| 再資源化率(%) | | 74.1 | | | 67.0 | | | 84.6 | | | |
| 焼却処理・埋立処分(%) | | 70.9 | | | 100.0 | | | 75.5 | | | |
| 中間処理・埋立処分(%) | | 0.0 | | | 0.0 | | | 0.0 | | | |
| 直接埋立処分(%) | | 0.0 | | | 0.0 | | | 0.0 | | | |
| リサイクル代替値 ^{*1} | | 再生パルプ、都市ごみ焼却による電力 | | | 再生パルプ、都市ごみ焼却による電力 | | | 再生パルプ、都市ごみ焼却による電力 | | | |
| 代替えすると想定されるもの | | クラフトパルプ、発電所の電力 | | | クラフトパルプ、発電所の電力 | | | クラフトパルプ、発電所の電力 | | | |
| | 単位 | ライフサイクル合計 | リサイクル代替値 | 差し引き後 | ライフサイクル合計 | リサイクル代替値 | 差し引き後 | ライフサイクル合計 | リサイクル代替値 | 差し引き後 | |
| 資源 | 木材資源消費量 | Kg | 0.01547 | -0.00611 | 0.00937 | 0.01505 | -0.00203 | 0.01302 | 0.08132 | -0.02593 | 0.05539 |
| | 化石資源消費量 | MJ | 0.12972 | — | 0.12972 | 0.17359 | — | 0.17359 | 0.22548 | — | 0.22548 |
| エネルギー | エネルギー消費量 | MJ | 0.30537 | -0.02815 | 0.27722 | 0.69387 | -0.04266 | 0.65121 | 1.17302 | -0.09677 | 1.07625 |
| | CO ₂ 排出量 ^{*2} | kg-CO ₂ | 0.01673 | -0.00367 | 0.01306 | 0.03373 | -0.00241 | 0.03132 | 0.04720 | -0.01479 | 0.03242 |
| 大気汚染 | バイオマスCO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ | 0.01383 | -0.00349 | 0.01035 | 0.02737 | -0.00116 | 0.02621 | 0.06959 | -0.01481 | 0.05479 |
| | NO _x 排出量 | g-NO _x | 0.03330 | -0.00310 | 0.03021 | 0.07396 | -0.00202 | 0.07194 | 0.13390 | -0.01249 | 0.12141 |
| | SO _x 排出量 | g-SO _x | 0.01431 | -0.00296 | 0.01135 | 0.07206 | -0.00177 | 0.07029 | 0.04281 | -0.01203 | 0.03077 |

*1 ガラスびんのように再生されたガラスが再びガラスびんの原材料として使用されるリサイクルとは違い、紙パックの場合、リサイクルして得られる「再生パルプ」は、家庭紙など別製品の原材料に使用されます。このようなリサイクルをオープンルーフ・リサイクルと呼びます。LCI分析におけるオープンルーフ・リサイクルの便益の計算には、いろいろな考え方がありますが、ここでは環境省でも採用している「リサイクル代替値:製品AのLCIにおいて、製品Bでの原材料の代替による便益は、製品Aに帰属させる。ただし、その値を明らかにして別途標記する」という手法を採用しました。紙パックでは、マテリアルリサイクルによる再生原料(再生パルプ)とサーマルリサイクル(廃棄物処理施設での発電)による電力の2つがリサイクル代替の対象となります。前者は家庭紙工場のバージンパルプ原料の削減、後者は発電所の発電量の削減という便益を与えており、それぞれの合計を紙パックの「リサイクル代替値」としています。
 *2 CO₂排出量は、バイオマス由来のCO₂を除いたCO₂排出量を示します。
 *1 LCAとは「ライフサイクル・アセスメント」のアルファベットの頭文字で、原料採掘から製造、流通、消費、廃棄、リサイクルまでの製品の一生(ライフサイクル)の環境負荷を定量的に把握し、評価する手法のこと。国際標準化機構(ISO)では、LCAに関する規格として、ISO14040~14043などを定めています。
 *2 LCIとは「ライフサイクル・インベントリ」のアルファベットの頭文字のこと。製品のライフサイクルにおける各工程の入力(資源エネルギーや製品など)と出力(廃棄物や大気、水系への排出物と製品など)に関するデータはインベントリデータと呼ばれ、各過程のイベントリデータを製品のライフサイクルを通じて集計したものが、LCIと呼ばれます。

2005年度も引き続き調査を実施し、データの精度向上に努めます。

2005年度も引き続きLCIデータのいっそうの充実を図るため、右の調査テーマで活動しています。結果は、外部専門家のレビューを受けて報告書にまとめ、別途公表する予定です。

な紙パック3種類のLCIデータを下表に示します。
 さらに詳細な内容が必要な方は、下記の2点の報告書をご参照ください。
 ①2004年度全国牛乳容器環境協議会紙パックLCI調査委員会報告書~飲料用紙容器のインベントリデータに関する調査研究~(2005年3月・全国牛乳容器環境協議会発行)
 ②平成16年度容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業報告書(2005年3月・(財)政策科学研究所発行)

- ① 北欧の紙パックの原紙製造工程のデータ採取
- ② 500ml 屋根型(アルミなし)紙パックのデータ採取
- ③ 内容物充填工程のデータの採取(拡充)
- ④ 国内外のデータ活用事例の把握

海外調査

フィンランドとベルギーを視察し、リサイクルの実態を調査。

2005年度の海外調査は、世界一大きな製紙メーカーであるストゥーラエンソ社の本社や工場があるフィンランドとACE(The Alliance for Beverage Cartons and The Environment)の本部があるベルギーを訪問しました。今回の視察は、北欧での紙パック原紙の育林、伐採、チップ製造、製紙に関するデータを最新にするLCA調査が主たる目的でした。これらの調査はもとより、紙パックのリサイクルは石油やガラスのように枯渇してしまう原料から作られる製品よりも、植林をすることで資源を再生できる「再生可能な資源」というジャンルに入ることを明確にした有意義なものとなりました。
 フィンランドでは、ストゥーラエンソ社の環境関連のメンバーと相互に、紙パックのリサイクル活動や環境取り組みに関するミーティングを行いました。また、木材や紙の原料となる森林で、伐採や幼苗の植

付けを実際に体験してきました。多くの原料となる材木はサスティナビリティがなされ、原産地と管理された森林から購入することを基本としてしていると説明がありました。工場では材木にできないものをパルプとし、パルプにできない木材廃物をいかにエネルギー源にするかを検討実施していました。また、スーパーマーケット敷地にある使用済み飲料カートの自治体収集設備の見学を行いました。
 ACE本部訪問では、日本とEUの紙パックリサイクルの状況をお互いに説明し、意見交換を行いました。ACEでは、「再生可能な資源」である紙パックの環境優位性の啓発をもっとも重要と考え、広くPRしています。EUにおいても、消費者に対する啓発が課題であるということでした。
 今回の視察調査においては、今後の当協議会の活動に活用できる多くの情報を得ることができました。



伐採の後に幼苗を植林する人と道具



スーパーマーケットに隣接する飲料容器等のリサイクル収集場



ACE事務局長と海外調査団長との質疑応答



2005年度の調査団全員で

その他の2005年度の活動

今年で19回目を迎える パック連全国大会に当協議会も協賛。

●牛乳パックの再利用を考える全国大会

2005年8月6日(土)、7日(日)、「牛乳パックの再利用を考える連絡会」の全国大会が大阪市で開催されました。19回目を迎える今年のテーマは、「儲かりまっか?リサイクル」。当協議会も協賛し、再生紙メーカーやリサイクル業者、行政関係者など約450人が参加しました。

1日目の開会セレモニーでは、パック連の平井成子代表が「牛乳パック再利用は、もったいない運動の元祖」とあいさつされ、太田房江大阪府知事からも「環境問題は行政、市民、事業者のパートナーシップが不可欠」との言葉がありました。その後、牛乳パック再利用に取り組む学校などを紹介するビデオ上映と「牛乳パックリサイクルと容器包装リサイクル法」を考えるシンポジウムを開催。さらに二日目は、「集めまっせ」「進めまっせ」「作りまっせ」「使いまっせ」「喋りまっせ」と5つの分科会が行われ、事例報告や積極的な意見交換が行われました。

市民運動としてはじまった牛乳パックのリサイクルも20年を経過。「環境問題の中で牛乳パックの位

置づけを明確にしていく必要があり、今後も運動を続けていこう」という力強い言葉で締めくくられ、盛況のうちに終了となりました。



積極的な意見交換の場に



当協議会の展示品

紙パックのリサイクルを啓発。 恒例のイベントに今年も参加。

●第22回 森林の市

4月29日(祝)、30日(土)、林野庁主催の「第22回森林の市」に出展しました。今年は日比谷公園の「にれの木広場」に場所を移しての開催で、両日で6万人の来場者を記録。当協議会は「森林の恵みから生まれた牛乳パック・リサイクルありがとう」をテーマに、パネル展示や再生製品の展示、牛乳パックを使った手芸品実演などを行い、リサイクルの大切さを広く啓発しました。



好評だった実演コーナー

昨年に引き続き エコプロダクツ展に出展しました。

●エコプロダクツ2005

2005年12月15日(木)～17日(土)に東京ビッグサイトにおいて開催された国内最大級の環境展「エコプロダクツ2005」に、紙パックのリサイクル普及啓発活動の一環として、昨年に引き続き出展しました。

ブースは、管理された森林から紙パックができるまでの成り立ち、飲料が消費された後の紙パックのリサイクルの流れのパネル展示やビデオ紹介、工作コンクール受賞作品の展示の他、「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」の協力による牛乳パックの手渡きはがきづくり体験コーナー、全国会員の紙パックを利用した隠し文字あてゲームコーナーなどを設置。来場者の皆さんが楽しみながら紙パックのリサイクルについて知識と理解を深められるイベントとなりました。



全国会員の牛乳パックで作ったゲート



紙すきコーナー

学乳パックのリサイクル促進を目指し、 今年は甲府市とさいたま市で開催。

●リサイクル講習会

学校給食の牛乳パックリサイクルに取り組む小中学校は年々、増加していますが、これから始めようとする学校では「低学年でも可能か」「水道の使用量が増えるのでは」といった不安があるようです。

そこで当協議会では「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」と協同で、学校関係者を対象にした学乳パックのリサイクル講習会を毎年、開催し、全国の導入事例の報告やリサイクルの実演を行っています。今年は8月24日に甲府市で、8月30日にさいたま市で開催。両会場とも、学乳パックのリサイクルの状況などを紹介した後、参加者全員で「洗って、開いて、乾かして」を実践しました。また牛乳パックの手渡きはがきづくりにも挑戦し、森林資源の保護に役立つリサイクルの意義を実感していただきました。



甲府市



さいたま市